

教育再生実行会議（第1回） 議事要旨

日 時：平成25年1月24日（木）10：03～11：05

場 所：首相官邸小ホール

出席者：安倍内閣総理大臣、菅内閣官房長官、下村文部科学大臣兼教育再生担当大臣、加藤内閣官房副長官、世耕内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、福井文部科学副大臣、谷川文部科学副大臣、丹羽文部科学大臣政務官、義家文部科学大臣政務官、遠藤衆議院議員、富田衆議院議員及び有識者14名

○安倍内閣総理大臣より冒頭挨拶

教育再生は、経済再生と並ぶ日本国の最重要課題であり、「強い日本」を取り戻すためには、日本の将来を担っていく子どもたちの教育を再生することが不可欠。教育再生の最終的な大目標は、世界トップレベルの学力と規範意識を身につける機会を保障すること。

第1次安倍内閣においては、約60年ぶりに教育基本法を改正し、教育の目標として、豊かな情操と道徳心を培うこと、伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛する態度を養うことなどを明確に規定した。また、教育再生会議においては、社会総がかりで教育再生を図るための方策について議論し、改正教育基本法を実現するための学校教育法改正など「教育三法」の成立や、約40年ぶりの全国学力・学習状況調査の実施などに結実させた。

しかしながら、その後の教育現場は、残念ながら改正教育基本法の理念が実現したといえる状況にない。いじめ・体罰に起因して子どもの尊い命が絶たれるといった痛ましい事案は断じて繰り返してはならない。

私は、教育再生に取り組む決意を新たにして、第2次安倍内閣において、下村文部科学大臣に教育再生担当大臣を兼務させ、内閣を挙げて教育再生に取り組む体制を整備するとともに、「教育再生実行会議」を設置し、教育再生の実行を強力に進めていくこととしている。

会議の座長には、鎌田薫早稲田大学総長に、副座長には佃和夫三菱重工業株式会社代表取締役会長に、お願いしたところ。教育再生にはまだまだ壁もあるので、この会議の場において、物議を醸すことになったとしても、ご意見を活発にいただきたい。それが日本の教育を変えていくことにつながる。

○下村大臣文部科学大臣兼教育再生担当大臣より冒頭挨拶

第1次安倍内閣では、私も内閣官房副長官として「教育再生会議」の議論に参画し、学校教育法や教育職員免許法などの改正に力を尽くしてきたところ。このたびの「教育再生実行会議」においては、「教育再生実行」の名称が示すように、さきの「教育再生会議」の提言や実績を踏まえつつ、直面する具体的なテーマについて、集中的かつ迅速に御審議

いただき、必要な法改正や予算措置等を講じてまいりたい。

また、自民党の教育再生実行本部から昨年11月に中間提言取りまとめが行われるなど、各政党においても様々な教育再生のための提言が行われている。このような提言も参考にしつつ、できるものから、できるだけ早く改革の実行に取り組んでまいりたい。

当面の審議内容としては、①いじめ問題への対応、②教育委員会の抜本的な見直し、③大学の在り方の抜本的な見直し、④グローバル化に対応した教育、等について検討を進めていただき、その後、⑤6・3・3・4制の在り方、⑥大学入試の在り方、等についても御検討していただきたい。

特に、いじめ問題への対応については、「いじめは絶対に許されない」との意識を日本全体で共有し、子どもを「加害者にも、被害者にも、傍観者にもしない」教育を実現するよう、本日の会議から様々な御意見をいただきたい。皆様方におかれましては、今後の日本に必要な教育の再生を実行に移していくため、活発な御議論を展開していただきたい。

○鎌田座長より冒頭挨拶

国力の源泉は教育。日本が飛躍的發展を遂げたのも、震災後に海外から国民の規範意識の高さを評価されたのも、高い水準の教育とそれが社会に浸透していたことによる。しかし、近年は国際的地位が低下し、グローバル人材の育成が喫緊の課題となり、学力低下、体罰やいじめへの関心も高まる。子供が明るく活気にあふれた教育環境で個性と能力を開花させ、そのような環境の下で健全に育った若者が我が国の歩みの原動力になることが強く期待される。この会議はそのための対策を具体的に早く出すことが求められている。教育はその成果の発現に時間がかかるため、本会議の提言は後世の検証に耐えうるものであることが必要。お集まりの皆様との協力で、成し遂げられると思う。よろしく願いたい。

以下、各有識者等より発言。

(大竹美喜委員)

- グローバルビジネス学会の会長として、グローバルビジネスの観点からどんな人材が必要か意見を述べていきたいと考えている。世の中を変えるのは人であり、人を変えるのは教育であるということについては、全くそのとおりと考える。加えて、親と社会の関係、そして責任についても追って本会議で各委員と議論してまいりたい。

(尾崎正直委員)

- 知事として教育問題について取り組んできた。本県は、平成19年の学力調査では、公立中学校については全国で46番で、体力テストは公立中学校で47番。教育をいかに再生するかは知事としても関心事項。宿題や単元テスト、補習などの取組を地道に積み上げる必要がある。これにより、平成19年から24年にかけては伸び率ナンバー1となっ

ている。体力は 30 番台となり、小学校は平均を上回るようになった。着実にひとつひとつ積み重ねたい。

- いじめについては、できるだけ認知しないようにしようと教育現場がしているのではない。積極的に認知し、学校が組織的に対応することが必要。先生ひとりひとりだけでなく仕組みが大切。

(貝ノ瀬滋委員)

- 総理が話した経済再生と教育再生が重要という点に賛成。安倍ノミクスと安倍エデュケーションの開幕。経済再生の基本として教育再生、人材育成が基本になければならない。大変大事な会議と認識。教育行政を進めてきたものとして参加したい。学校現場は多様な子供たちの存在がある。また、何々教育の増加、例えば環境、消費者、放射能など、教科の勉強のほかにそうした勉強の要請もある。ひとりひとりの子供に焦点を当てるとなると、思い切った教員の手当を考える必要がある。教育改革を断行し、教員意識を改革するためには、教育環境の整備も必要。
- いじめは絶対に許されないが、うすうす現場ではわかっている。虐待防止の通報のような仕組みを作り、子供たちの通報を受ける第三者機関や、道徳教育が重要。

(加戸守行委員)

- 戦前は、小学校の筆頭教科は修身でその後に国語、算数が続いた。教育勅語で明示した 8 つの徳目も、6 番目までは身を修めること。戦後、修身は廃止され、義務と責任の意識が希薄になった。いじめの問題が取り上げられているこの時期に、道徳の必須教科化は至上命題。昭和 49 年の人材確保法で教職員の給与を一般行政職より 20% アップした。その頃から 40 年たったが、もう一度思い出して頂きたい。

(蒲島郁夫委員)

- 私自身の経験から、家庭状況や学校の成績に関わらず、人間の可能性はすごく大きい。そして、夢を持ち、夢に向かって一歩進むことが大切。もし、社会がそれを育まない社会であれば政治の力でそれを作り出さなければいけない。そのような信念の下、熊本県では、「貧困の連鎖を教育で断ち切る」「夢を育む教育」、そして、内向きでなく海外志向を高める取組みを進めている。いじめについては、まず、発見すること、そして、いかに解消率をあげるかが大事。熊本県では幸い、発見・解消率ともにトップを走っていると思っており、今後もこのような考えで進めていきたい。

(川合眞紀委員)

- グローバル化の時代にあって、教育現場に対する3つの要望をしたい。子供には、いろんな情報の中から自ら考える力をつけてほしい。教員には、子供と向き合う時間を確保し、個性への対処ができるようにしてほしい。教育環境については、自治体、教育委員会、住民などの関係者が教育現場とともに人を育てるといった開かれた環境を取り入れることが重要。教員の負担の話があるが、子供と教員の人数配置の問題もある。また、自分で考える力をつけることがいじめの解消にもつながる。

(河野達信委員)

- 教職員の役割と責任は大きい。学校現場の教職員が子供たちのために自信や誇りをもって職務に専念する環境整備が重要。
- いじめの早期発見は教職員が取り組むことであり、そのためにはひとりひとりの子供に正面から向き合える環境が必要。学校現場の多忙感を解消するとともに、教員定数を計画的に改善し、少人数学級化を図っていくことが不可欠。
- いじめを深刻化させないようにするため、国が児童生徒の規律規定を設けることが必要。これにより、一連の指導を行いやすくなるを考える。学校と警察との役割を明確化し、積極的に連携すべき。学校と家庭との連携も重要。家庭においても加害者にさせないしつけが必要。家庭の役割と責任明確にすべき。

(佐々木喜一委員)

- 私の塾では、休憩時間が5分しかなく、また授業が高度で集中しているので、いじめをしている暇はない。万が一いじめがあれば退塾をされていると思う。現在約1万5000人の会員がいるが、通塾時に門標に会釈をして気持ちを切り替え、授業時には合掌、黙想をして親や周りの方への感謝の気持ちを表すようにしている。
- 「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」の5Sの教育現場への徹底実践をお願いしたい。NYでは、落書き消しなどを行うことで犯罪が劇的に減ったし、高度成長期においてもメイドインジャパンの品質の高さを誇ったのは5Sによるもの。雑然とした中では、子供たちが発するサインがなかなか届きにくい。
- 先生や親を尊敬する子どもの割合は、海外では80%というデータがあるが、日本では先生への尊敬は21%、親への尊敬は25%に止まっている。5Sを通して親や先生が率先垂範してリーダーシップを示し、尊敬される存在になることが、いじめを含めた日本の教育が抱える諸問題の解決の糸口になるのではないか。

(鈴木高弘委員)

- 教育再生会議の提言はすばらしいが、現場に定着していない。「しっかりと飯を食わせて陽にあてしふとんにくるみて寝かす仕合せ」という歌のように、親と教師に対して子供を守り、それを喜びとしてほしいと申し上げたい。また、お配りした田中角栄氏の訓示も読んでいただきたい。総理の生い立ち、自分にとって必要なこと、若者に何が必要か書いてある。

(武田美保委員)

- 極端に自己肯定感が低いのは、謙虚さという日本の文化の取り違え。日本の「謙虚」というのは、卑下することではなく変わらず努力し、人に対する思いやりにつながるもの。これは親に教えてもらった。学校現場というよりも、家庭で言うべきこと。
- いじめについては、謙虚さにもつながることであるが、自分自身の自己肯定感を持てれば、いじめる気持ちはなくなる。教育再生会議の第一次提言は重要だが、いじめのない学校をよしとするのではなく、むしろ、いじめにどのように対処したかが評価されるべき。聞き取り調査をしても教諭が無いと判断する隠蔽体質があるのではないか。教育委員会が常に子供たちの状態を知る仕組みを。休み時間や放課後に教育委員が抜き打ちで見に行ってはどうか。

(八木秀次委員)

- 教育再生は経済再生と並ぶ重要課題というより、むしろ一体のものと思っている。30年前、米国の連邦政府の報告書「危機に立つ国家」で米国の国力が落ちた原因は教育だと分析されており、今日の日本にも当てはまるもの。教育は国家戦略と位置づけてほしい。また、改正教育基本法の理念の具体化を考えたい。
- いじめは、防止措置の検討が必要。対処療法で無く道徳の充実、教科化も必要。体罰は文科省としてガイドラインを提示してはどうか。教育委員会制度の構造的な抜本的改革が必要。

(山内昌之委員)

- 日本が直面する教育に関連する課題として、学校教育や、その延長としての基礎研究がある。いじめと体罰の問題のほか、グローバル化への対応や、研究開発とその基礎となる高等教育への政府支援も重要。21世紀の経済再生の基本は教育再生であると考えている。

(佃和夫副座長)

- 今回の課題として挙がっているものは、これまでかなり議論されてきているもので、方向性を定めて直ちに具体的な施策に展開できるような旗幟鮮明な提言をしていきたい。
- いじめについては、いじめられている子供を学校が守り通すことが大切。守り通すことで、いじめに耐性をもつタフな子供になる。いじめを完全になくすことはできないし、社会に出てもいじめはある。また、子供を守り通すと同時に先生方も、モンスター・ペアレンツやマスコミ等から学校が組織的に守らないといけない。

(遠藤利明衆議院議員)

- シンガポールの教育関係者から、「日本の教育制度を参考にしてきたが、いまや参考にならない。結果の平等は無理。個人の能力を生かす教育を私たちはしている。」と言われた。日本は結果の平等を求めすぎていて、単線の画一化した教育だった。こうしたことを思いながら自民党の教育再生本部の本部長を引き継いだところ。自民党の中間とりまとめ資料の中では、ひとりひとりの能力を生かす仕組みとして、6・3・3・4制から幼児教育も含めて5・4・4制の仕組みの可能性や飛び級などの事柄を盛り込んでい。教師の採用にも問題がある。尊敬される教師でないといけない。教員でなく「教師」としたい。教師インターシップ制度も考えたい。
- いじめについては、馳座長のとりまとめたいじめ対策があるが、社会全体で取り組むことが必要。いつ加害者にも被害者にもなるかわからない。馳議員を中心にして議員立法にし、各党に了解してもらって早期成立を目指したい。リーダー的な存在の子どもを育てていくのもいじめ防止に必要。

(富田茂之衆議院議員)

- 2000年に青少年問題特別委員長として、全党了解で一つの法案を作った。3度の改正を経て今の状況になっている。いじめ対策法について、全党の理解をどう得るかが重要。他の党と一緒にがんばりたい。社会のための教育で無く、教育のための社会という姿勢で取り組んでいきたい。貧困の連鎖を教育で断ちきりたいという思いで議員になった。

最後に、安倍内閣総理大臣より以下の発言があった。

- 本日は、各々のご経験に基づいた話をいただいた。この会議では、初等、中等、高等教育のそれぞれのあり方について議論いただきたい。特にいじめ・体罰の問題は初等、中等教育にかかわることと思う。

私の地元の山口では、教育と言うと吉田松陰であり、吉田松陰は「学は人たる所以を学ぶなり」と述べている。山口県には、藩校の明倫館がそのまま小学校になった明倫小

学校があり、1年生に入学した時から松陰の言葉を暗唱する教育をずっと行っている。初等教育においては人間形成が一番大切。

また、教育基本法を変える大きな動機の1つが自己肯定感が日本人の青少年は非常に低かったということだった。

先の教育再生会議でもすばらしい方針をまとめていただいたが、現場がそうっていないのは政治に大きな責任がある。しっかり浸透させていくためにも、政治を安定させていく必要がある。

教育再生会議では、ゆとり教育の見直しも行った。ゆとり教育は、その意図は良かったものの、政策にはよく意図と結果が全然違う場合がある。この会議でも、今までの政策との連続性は全然考えないでいただいて、変えるべきは思い切って変えるという意味で、積極的にご議論いただきたい。

- 座長より、次回会議でのいじめ・体罰の問題についての提言のとりまとめに向け、各委員に対し、事務局への意見提出を要請するとともに、次回日程については、調整の上、決定することとされた。